

令和3年12月 発地別延べ宿泊者数割合

(単位：人泊、%)

【国内】

	県内	福岡県	その他九州	四国	中国	近畿	中部	関東	東北・北海道	国内計
令和3年12月(速報値)	77,790	88,848	45,628	6,355	20,687	23,540	10,859	43,248	3,054	320,009
令和2年12月(速報値)	39,501	93,793	37,737	3,142	12,444	26,256	11,671	41,195	2,602	268,341
前年同月比	196.9	94.7	120.9	202.3	166.2	89.7	93.0	105.0	117.4	119.3
2019年12月(確報値)	64,343	90,094	53,436	9,039	27,331	26,894	12,862	50,381	7,763	342,143
2019年同月比	120.9	98.6	85.4	70.3	75.7	87.5	84.4	85.8	39.3	93.5
2018年12月(確報値)	64,047	88,116	49,843	9,541	24,107	24,016	10,672	45,821	3,366	319,529
2018年同月比	121.5	100.8	91.5	66.6	85.8	98.0	101.8	94.4	90.7	100.2
令和3年11月(速報値)	67,991	90,854	44,354	5,789	17,218	25,713	10,709	46,269	3,244	312,141
前月比	114.4	97.8	102.9	109.8	120.1	91.5	101.4	93.5	94.1	102.5

【国外】

	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他アジア	欧米豪その他	外国小計
令和3年12月(速報値)	*	*	*	*	*	*	*	220
令和2年12月(速報値)	29	8	0	13	4	863	70	987
前年同月比	*	*	*	*	*	*	*	22.3
2019年12月(確報値)	7,014	7,242	7,925	11,947	2,509	3,528	3,694	53,044
2019年同月比	*	*	*	*	*	*	*	0.4
2018年12月(確報値)	53,914	5,693	8,007	9,433	1,820	4,196	1,961	85,024
2018年同月比	*	*	*	*	*	*	*	0.3
令和3年11月(速報値)	*	*	*	*	*	*	*	607
前月比	*	*	*	*	*	*	*	36.2

* 令和3年発地別宿泊者数(速報値)は、サンプル数が過小のため表示しない

【全体】

	合計
令和3年12月(速報値)	320,229
令和2年12月(速報値)	269,328
前年同月比	118.9
2019年12月(確報値)	395,187
2019年同月比	81.0
2018年12月(確報値)	404,553
2018年同月比	79.2
令和3年11月(速報値)	312,748
前月比	102.4

①R3年1月調査から、宿泊客数調査の対象を従業員数10人以上の全施設(186施設)に変更しました。
この変更に伴い、R2年、2019年の公表値についても同規模施設数の推計値に再計算しています。
※発地別延べ宿泊者数は、速報の公表時に大きく変更されることがあります。

出典：大分県観光統計調査

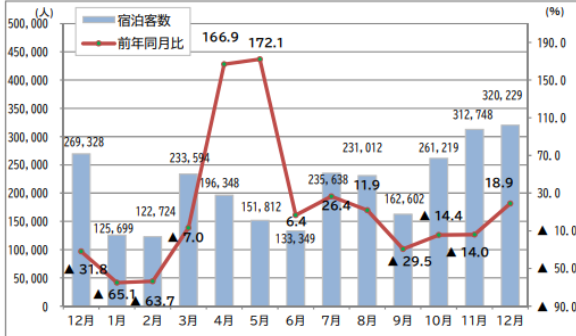
<傾向・分析>

- ・国内の延べ宿泊者数は前年同月比119.3%、前月比102.5%。引き続き感染状況が落ち着いていたことに加え、「新しいおいた旅割」が近隣県(福岡・熊本・宮崎・山口・愛媛)も対象となったことなどから対象県を含む九州や四国、中国からの宿泊者数は増加。国内全体としても前年同月比、前月比ともに増加している。国内宿泊者数は、3か月連続で前の月を上回った。
- ・コロナ禍前と比べても、前々年同月比93.5%、前々々年同月比100.2%とほぼ同水準まで戻る。
- ・国外の延べ宿泊者数は、前年同月比22.3%、前月比36.2%。コロナ禍前の前々年、前々々同月比はいずれも0.4%、0.3%。諸外国で感染が急速に広まるオミクロン株の感染者が日本でも確認され、更なる水際対策の強化などが影響し、依然として低水準が続く。
- ・全体の延べ宿泊者数は前年同月比118.9%。前々年同月比は81.0%、前々々年同月比は79.2%、前月比は102.4%。

令和3年12月の宿泊客等の動向 (令和2年12月速報、令和3年1月～12月速速報)

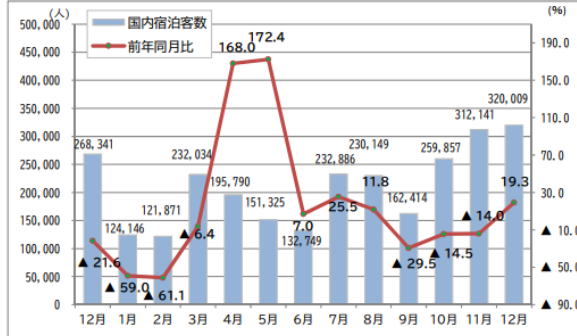
(1) 宿泊客の動向

令和3年12月の宿泊客数の前年同月比は、速速報で+18.9%となる見込み。



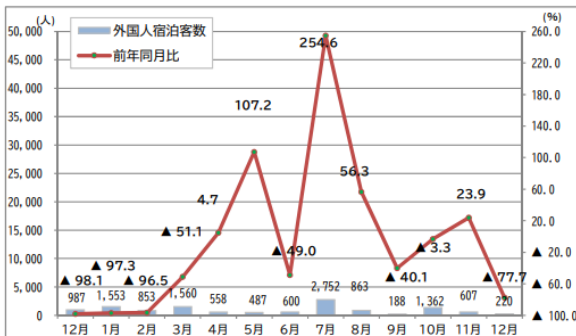
(1)-① 日本人宿泊客の動向

令和3年12月の日本人宿泊客数の前年同月比は、速速報で+19.3%となる見込み。



(1)-② 外国人宿泊客の動向

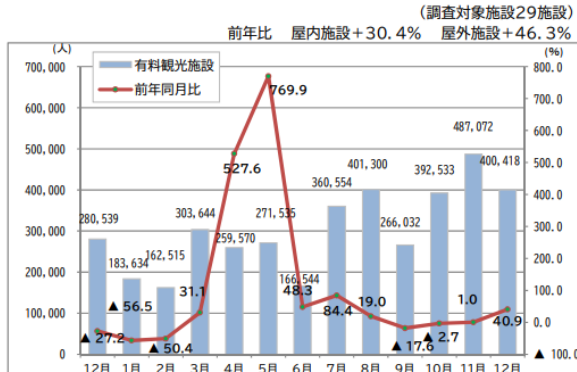
令和3年12月の外国人宿泊客数の前年同月比は、速速報で-77.7%となる見込み。



※R3年1月調査から、宿泊客数調査の対象を従業員数10人以上の全施設(186施設)に変更しました。この変更に伴い、R2年の公表値についても同規模施設数の推計値に再計算しています。

(2) 有料観光施設(入場客)の動向

令和3年12月の有料観光施設(入場客)の前年同月比は、速速報で+40.9%となる見込み。



※観光施設の前年比は、休業業・未提出施設を除いて算出しているため、過去に公表している値と比較すると一致しない場合があります。

出典：大分県観光統計調査

<傾向・分析>

- 日本人宿泊客は、昨年7月からのGoToトラベルキャンペーン実施に伴い秋にかけて増加するも、その後感染者数の増加を受けて12月にGoToトラベルの一時停止や1月には一部地域に緊急事態宣言が発令されたことにより減少に転じる。その後、3月に緊急事態宣言の全面解除や、県民向け「新しいおいた旅割」等の影響で増加したが、4月に入り全国で感染者数が増加、全国各地で「まん延防止等重点措置」の適用や緊急事態宣言が発令され、5月も更に拡大・延長し、6月まで宣言は延長。6月末に9都道府県にて緊急事態宣言が解除されたのち、7月には増加に転じるものの、7月末からの感染者数の増加や緊急事態宣言地域の拡大などにより8月・9月の宿泊客数は減少傾向が続いた。9月末に全国で緊急事態宣言が解除となり、「新しいおいた旅割」も再開となったことから10月・11月は増加。12月6日からは「新しいおいた旅割」の対象に近隣県も加わったことなどから更に増加した。
- 有料観光施設の動向については前年同月比140.9%。秋の行楽シーズンであった前月と比べると減少しているものの、前年同月比は増加となった。
- 外国人宿泊客は、11月8日より一部入国制限が緩和されたものの、11月29日よりオミクロン株への対策として水際対策を再び強化しており、宿泊客数は依然として低水準が続く。
- 全体においては、未だインパウンドの回復が見られない中、国内宿泊者の動きがそのまま反映されたが、国内宿泊者の動きは、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や各種規制宣言等の有無、トラベルキャンペーン等の実施状況により変動しているとみられる。